

I. 会社の概要

2017年3月31日現在

会社名	au 損害保険株式会社	ホームページ	http://www.au-sonpo.co.jp/
本社所在地	〒150-6006 東京都渋谷区恵比寿 4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー6F		
お問い合わせ・ ご相談窓口	【お問合せ窓口】	カスタマーセンター	0800-700-0600
	【事故のご連絡】	スタンダード傷害保険・国内旅行傷害保険	0077-78-0365
		海外旅行保険	0077-78-7365
		ペットの保険	0800-700-1122
	【お客さま向けサービス】	自転車ロードサービス	0077-78-8365
かかりつけ獣医師ダイヤル		050-2018-1919	
国内営業拠点数	— (注1)	国内損害サービス拠点数	15 か所
従業員数	116 人	国内代理店数	102 店
沿革	<p>2010年 2月 あいおい損害保険株式会社（現 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社）とKDDI株式会社の共同出資によりモバイル損保設立準備株式会社として設立</p> <p>2011年 2月 損害保険業の免許を取得</p> <p>2011年 3月 社名を「au 損害保険株式会社」に変更</p> <p>2011年 5月 営業開始</p> <p>2012年 11月 港区虎ノ門から渋谷区東へ本社移転</p> <p>2015年 7月 渋谷区東から渋谷区恵比寿へ本社移転</p>		
経営理念	<p>【au 損保の目指す姿】</p> <p>1. 「スマホでソポ」 従来の保険会社の枠組みを打破し、時代の最先端を走る損保 au ブランドの損害保険会社として、スマートフォンを中心に、保険契約から保険料支払い、契約変更、保険金請求までの全てを簡単に完結するシステムを開発し、“いつでも・どこでも・手軽に”手続きができる、新しい保険スキームを構築します。 当社は“保険のベンチャー企業”として、常にお客さまにとってより良い商品・サービスの開発に果敢に挑戦し、時代の最先端を走る保険業界のイノベーターとして独自の価値を創造してまいります。</p> <p>2. はじめて保険に接するお客さまへわかりやすく魅力的な商品を提案する損保 保険のエントリー層である 20代 30代の若い方々や、特定の分野に特化したマーケットに対して、新しい保険・サービスを提供します。 一方で、昨今の自転車事故への備えの重要性や、社会の関心の高まりにこたえるべく、普及拡大への要請が強い個人賠償責任保険やケガの保険等、これまで十分な保険提供がなされていなかった日常生活リスクの分野に、わかりやすく魅力的な保険プランをご提案し、お客さまの安心ライフを支えてまいります。</p> <p>3. お客さまを中心にすべてのステークホルダーに喜んでいただける損保 通信および保険を有機的に結び付けることで、お客さまに安心・満足いただける独自性のある保険商品と真に役立つサービスを提供することにより、『お客さまに選んでいただける会社』となることを目指してまいります。同時に、コンプライアンスとリスク管理の徹底を図り、成長性と収益性が確保できる健全な企業運営に取り組んでまいります。</p>		

(注1) 当社は携帯電話・インターネットを通じた通信販売を実施していることから、営業拠点を有していません。

II. 主な経営指標等の状況

※ 以下では、各社における代表的な経営指標等に限定して掲載していますので、より全体的・詳細な情報につきましては各社のホームページをご覧ください。

また、各指標についての簡単な説明を本紙次頁以降に記載しているほか、日本損害保険協会のホームページ上で「損害保険会社のディスクロージャーかんたんガイド」(<http://www.sonpo.or.jp/archive/publish/sonpo/0004.html>)も用意しておりますので、併せてご覧下さい。

(単位は“百万円”、ただし「正味損害率」「正味事業費率」「ソルベンシー・マージン比率」は“%”)

	2016年度	2015年度	2014年度		2016年度	2015年度	2014年度
正味収入保険料	6,102	6,032	6,027	保険引受利益	△649	333	1,176
(うち火災保険)	—	—	—	経常利益	△1,554	171	1,019
(うち自動車保険)	—	—	—	当期純利益	△1,271	26	951
(うち傷害保険)	1,606	1,252	606	資本金の額	2,400	2,400	2,400
正味支払保険金	3,607	2,749	1,532	総資産額	9,747	12,075	11,198
(うち火災保険)	—	—	—	純資産額	2,970	4,241	4,214
(うち自動車保険)	—	—	—	ソルベンシー・マージン比率	497.8	564.3	434.8
(うち傷害保険)	608	320	152	責任準備金残高	2,195	2,101	2,157
正味損害率	64.8	49.9	28.5				
正味事業費率	36.2	40.4	49.3				

主な経営指標の解説

●正味収入保険料

一般の企業の売上高に相当するもので、お客様からいただいた保険料から、再保険（※1）に要した保険料等を加減したものです。

《算式》

「正味収入保険料」＝「元受正味保険料」＋「受再正味保険料」－「支払再保険料」－「収入積立保険料（※2）」

（※1）再保険

損害保険会社が引き受けた危険を分散するために、保険契約上の責任の一部または全てを他の損害保険会社に引き受けてもらうことです。

（※2）収入積立保険料

積立保険において、お客様からいただいた保険料のうち、将来、お客様に返戻すべき満期返戻金等の原資に相当する部分の保険料です。

●元受正味保険料

お客様からいただいた保険料から、諸返戻金（満期返戻金を除く）を差し引いたものです。

《算式》

「元受正味保険料」＝「元受収入保険料」－「諸返戻金（満期返戻金を除く）」

●正味支払保険金

お客様にお支払いした保険金と他の損害保険会社へ再保険で支払った再保険金の合計額から、再保険で回収した保険金を差し引いたものです。

《算式》

「正味支払保険金」＝「元受正味保険金」＋「受再正味保険金」－「回収再保険金」

●元受正味保険金

お客様にお支払いした保険金から、保険契約にかかる求償（※）などによる回収金を差し引いたものです。

（※）求償

損害保険会社がお客様に保険金をお支払いすることによって、保険金を請求する権利を損害保険会社が代わりに取得し、事故の相手に対して請求することです。

●正味損害率

損害保険会社が受け取った保険料に対し、お支払いした保険金と損害調査に要した費用の合計額の割合を示したものです。

《算式》

「正味損害率」＝（「正味支払保険金」＋「損害調査費（※）」）÷「正味収入保険料」

（※）損害調査費

損害調査業務や保険金支払業務に付随して発生する人件費、物件費、税金などの金額です。

●正味事業費率

損害保険会社が受け取った保険料に対し、保険の募集や維持管理のために使用した費用の割合を示したものです。

《算式》

「正味事業費率」＝（「保険引受にかかる営業費及び一般管理費」（※1）＋「諸手数料及び集金費（※2）」）÷「正味収入保険料」

（※1）保険引受にかかる営業費及び一般管理費

損害保険会社の経費のうち、保険の募集・販売を行う営業部門や一般管理部門等の損害調査関係以外の業務に関する経費です。（資産運用などに要する経費を除きます。）

（※2）諸手数料及び集金費

保険営業のために要した手数料等で、具体的には代理店手数料、保険仲立人手数料、募集費、集金費、受再保険手数料の合計金額から出再保険手数料を差し引いた金額です。

●保険引受利益

保険の引受けに関して、どのくらいの利益をあげたかを示したものです。

●経常利益

本来の事業活動により、どのくらいの利益をあげたかを示したものです。

一般の企業では、営業と営業外による収支で構成されていますが、損害保険会社の場合には、保険の引受、資産運用とその他の収支で構成されています。

●当期純利益

損害保険会社の最終的な利益を示したものです。

経常利益に、その年度の臨時・突発的な収入・支出・税金等を加減した最終的な利益です。

●ソルベンシー・マージン比率

損害保険会社の保険金等の支払い能力を示す指標です。

損害保険会社が、巨大災害や保有資産の大幅な価格下落など通常の予測を超えるリスクに対し、どのくらいの支払余力を有しているかを判断するための行政監督上の指標であり、ソルベンシー・マージン比率が 200%以上であれば、その損害保険会社の保険金等の支払い能力は問題ないとされています。

この指標は損害保険会社の健全性を見る上で重要な指標の一つですが、この指標だけにとらわれず、その他の指標と併せて総合的に見る必要があります。

なお、リスク計測の厳格化等を図るため、2011 年度から、算出にかかる法令等が改正されています。

●総資産額

損害保険会社の資産規模を示したものです。

国債・株式などの有価証券、現金、預貯金、貸付金、不動産などすべての資産を合計したものです。

●純資産額

総資産額から、責任準備金等の負債額を差し引いたものです。

●責任準備金

将来の保険金等の支払いに備えて、あらかじめ積み立てておく準備金のことです。